

# 「目的」 山本英佑

【東京海上日動火災保険株式会社】

山本英佑（やまもと・えいすけ）／関西学院  
中学部からFIGHTERSに所属。中学から高  
校の6年間はRBを務め、大学ではトレーナ  
ーとして活躍。2011年関西学院大学商学  
部卒業。東京海上日動火災保険株式会  
社に入社。4年間の大阪勤務を経て、2015年  
より福島県庁へ転出。現在は福島県企画調  
整部復興・総合計画課に在籍。福島県の風  
評・風化の払拭に向け、民間企業や首都圏  
の自治体との共創活動に努めている。

今も震災の爪痕が残る請戸漁港。  
復興への道のりは長い。



## ファイターズに入部した当時

フットボール好きの父の影響で、関西学院中  
学部への入学と同時にファイターズに入部しま  
した。中学から高校の6年間でプレーしまし  
たが、選手を続けるよりも、自らの選手経験を元  
にチームを支える方が力になるのではないと思  
い、大学ではトレーナーとして入部しました。

## 葛藤

自身最大の葛藤は大学1年生時。2007  
年度のライスボウルの試合中に起こりまし  
た。ライスボウルという最高の舞台でチーム  
の雰囲気も高騰している中、DBの深川匠さ  
ん（#11）が第1Qに相手のハードヒットを  
ヘルメットで受け、脳振盪の間診を私が行う  
事になりました。

結果、受傷後の記憶が明確ではありません  
でした。チームドクターにそれを伝えた結果、  
「主力選手でもあるし、ライスボウルという舞  
台。少し様子を見てみよう。」という言葉。今  
となつて「健忘症の症状があるため、残念な  
がら試合に出場させる事は出来ない。選手の気  
持ちは汲むためにも、今は『少し様子を見てみ  
よう』としか言えない。」というドクターや  
コーチの想いが理解出来るのですが、当時1年  
生の私はその想いを察する事が出来ず、「何と  
か試合に再出場してほしい。」と症状が回復す  
るのを待っていました。

「試合に出てほしい。勝ちたい。」という気  
持ちは裏腹に、試合に戻させないトレーナー  
としての行動の中で葛藤していました。

そのような中、深川さんは私より先に「試合  
に出られない」という事を悟ったのか、試合中  
にチームの裏方としてサポートする事に切り替  
えていました。深川さんの姿を見て、私は自分  
の立ち位置を恥じました。一番辛いのはライス  
ボウルという舞台に立てない選手なのに、一番  
切り替わっていないのは自分自身だと。

翌年度、鶴谷トレーナー、油谷コーチ、小野  
コーチらのご指導を頂きながら、「脳振盪が起  
こつたらどうするか」ではなく、「脳振盪を起こ  
させない」事に徹しました。4年生になった深  
川さんも、「起こしてからじゃ遅いぞ！俺みた  
いになんぞ！」と笑いを取りながら副将として  
後輩にトレーニングの指導していた姿を見て、  
より一層気が引き締まりました。

この出来事により、私自身ようやく「選手の  
延長線」から「トレーナー」に切り替える事が  
でき、また、ファイターズとしての一流の精神  
を学ばせてもらいました。

## 東日本大震災への想い

10年間のファイターズの生活が終わり、  
2011年に東京海上日動火災保険株式会社に  
入社しました。最初の4年間は大阪で営業をし  
ており、「損害保険」という「いざという時に  
人の役に立つもの」「安心と安全」を提供する  
事に努めていました。

「いざという時の為の」保険を扱うにあた  
り、いつも気にかかっていたのが2011年3  
月に発生した「東日本大震災」の事でした。21  
年間に「阪神淡路大震災」を自ら経験している  
事もあり、東日本大震災は他人事ではありませ  
んでした。

保険人として、あの未曾有の大震災の現状を  
知らずして何が出来るのかと思ひ、大阪で4年  
働いたタイピングで「復興の力になりたい。東  
北で働かせてください。」という希望を出した  
結果、「福島県庁」という「復興の第一線」の  
フィールドに立たせてもらいました。

## 現在の仕事内容

現在は福島県の企画調整部復興・総合計画課  
に在籍し、福島県の風評・風化という「二つの  
逆風」の払拭に向けた取り組みを行っているま  
す。主に、福島県外の民間企業や、東京都をは  
じめとした自治体に対し、福島県情報掲載の依  
頼、福島県産品の販路回復、観光旅行・教育旅  
行客の誘致といった活動を行っています。

その活動の中で、「震災から5年も経つた  
し、ほぼ復興したんでしょう？」「それでも福  
島県産品を使うのは怖いな。」という声も聞こ  
えてきます。その声を真摯に受け止めながら  
も、福島県の現状を理解してもらうために、  
「安心・安全だと言えるデータ」や「福島県民  
の想い」を明確に、あえて関西人の私が伝える  
ことで、興味を持ってもらえるように努めてい  
ます。

「県内への旅行客数を増やす」「県産品の流  
通量を増やす」といった目標はありますが、広  
義的な目的は「福島の人々の生活を豊かにす  
る」。そのために、一過性のものではなく、

永く福島県を支援してくれる団体を増やし、福  
島県の復興に繋げていきたいと思っています。  
ハードルが非常に高く、数字や勝敗で表す事の  
できない仕事ですが、自分の力を最大限発揮す  
る事で多くの福島の人々の為になると思うと、  
辛いと思つた事はありません。

## 社会人になった今思う事

関西学院のスクールモットーである「Mas-  
ter for Service（奉仕のための練達）」の精  
神を今こそ発揮しなければいけないと思つてい  
ます。「人々や社会に奉仕するための知識と人  
間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」と  
いう言葉のもと、根強い風評や風化といった課  
題を解決し、福島県の復興を加速化させる事こ  
そが社会への貢献だと思っています。

そのためにも、福島県の歴史、原発事故の内  
容、放射線の知識、日本各地の観光業や農業の  
現状等といった知識を深め、被災した人々に寄  
り添う姿勢を貫き、福島県の復興、ひいては日  
本の復興に貢献したいと思っています。

## 現役生へ

私は「福島の人たちの生活を豊かにする」とい  
う「目的」を思い浮かべると、どれだけ難しい課  
題があったとしても「辛さ」は感じません。  
ファイターズにおいて「目標」は日本一。で  
は「目的」は何か？という事を部員それぞれが  
胸に秘めていると思います。

「数字」や「勝利」という「目標」だけを追  
いかけては、正しい道を外してしまいます。ア  
メリカンフットボールにおいて「勝利」はとて  
も輝かしいものですが、ドーピングをしてまで  
勝ちたいですか？相手をケガさせるようなラフ  
プレーをしてまで勝ちたいですか？堂々と胸を  
張った「勝利」を得るためにも、ファイターズ  
は「勝利」の先に見える「どんな男になるの  
か」という目的をそれぞれが持っているのだと  
思います。

社会人になってようやく、そのDNAこそが  
ファイターズの強さなのだと感じるようになり  
ました。これから社会に出る皆さんも、「目  
標」と「目的」を明確にする事を決して忘れず  
にしてください。

ファイターズの活躍がOB・OGやファンの活  
力となっています。今年も頑張ってください。